



恵那市

第2回恵那市地域医療ビジョン策定委員会 資料



恵那市公式キャラクター エーナ

令和5年8月10日
医療福祉部地域医療課



目次

1. 前回の振り返り
2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について
 - ・医療、保健、介護、福祉等の計画
 - ・二次医療圏における救急体制図
 - ・恵那市消防の医療機関別搬送人員
3. 各公立医療機関の現状と課題





1. 前回の振り返り

前回の議事

1. 恵那市地域医療ビジョン策定委員会について
2. 恵那市地域医療ビジョン策定の背景
3. 医療需要について
4. 医療提供体制について
5. 市立恵那病院と国保上矢作病院
6. 国民健康保険診療所
7. 地域の医療の現状と課題(まとめ)





1. 前回の振り返り

委員のご意見__その1

資料項目番号	意見内容
4.医療提供体制について	<ul style="list-style-type: none">● 推計人口の棒グラフについて、年齢別に詳しく出したのはよいが、その内介護保険を利用している要介護の方がどの程度いるかをグラフに重ねると、いかに高齢化が著しいか分かります。● 少子高齢化と言いますが、少子高齢化の次は若者も老人も減ります。今後、人口が増えることはまずないです。移住する方もいますが、高齢者が多い。これから介護が必要になるような方の移住者が結構いたりすると財政に影響を与えるのでそのことも考えないといけない。● コロナ禍において入院先がなかなか見つかりませんでした。空いていても大部屋ばかりでそこに入院させると感染拡大してしまいます。個室であればコロナ病床に転用して、患者さんを診れたと思います。病院設計の段階で全個室とするなど非常時を想定して将来構想をしないと、ベッド数がいくつという単純な議論ではないと思います。● この恵那市が考える地域医療ビジョンというのは、歯科や薬科が入っていない。それらすべてを含めて住民の地域医療ビジョンを策定しなければいけない。
5.市立恵那病院と国保上矢作病院	<ul style="list-style-type: none">● 恵南地区は非常に広く、多治見市、瑞浪市の面積合わせたよりも広いくらいです。その地域の中で、学校の話に変わりますが、学校の統廃合の話があり中学校を1か所にまとめようという流れになっております。若い方はバスに乗って30分以上揺られて通学するような地域のため、そのような地域へ若い方が移住してくるでしょうか。子供がいる世帯の方は恵南地区には住みにくい。通学に30分要するのであれば、瑞浪方面に行った方が早いです。そのような地域が将来的な人口にどう影響を与えるのか。ますます若者はいなくなる。そのような流れの中で、外来患者も含めて小児科の患者が減ってくるということが見て取れると思います。● 市立恵那病院では令和元年について整形外科が非常勤で運営していたため入院患者が減りました。外来患者も減っているの、常勤医を探している状況です。新病院の開設とともに産婦人科を新設しており、現状300件程の分娩をしています。毎年少しずつ増えており、里帰り分娩が多いという報告を受けています。● 恵那市で1日に450人近く入院するというデータがありますが、市立恵那病院がおよそ6割の病床使用率とすると120人程の患者さんが入院している。国保上矢作病院は25～30人程なので全部足しても200人にもなりません。半数以上が恵那市以外で入院しているということとなりますが、今の状況が恵那市の病院として、機能しているか悩ましいです。● 岩村診療所は、1階が外来、2階が透析の施設を併設してます。資料では診療所と透析センターと別々に記載されていますが、実際は私1人で運営しています。診療所と透析センターは患者数と収益は合わせて考えていただければありがたいと思います。● 地域の場所の話で、“へき地”という言葉が使われていますが差別用語ですから、少し控えていただきたいです。





1. 前回の振り返り

委員のご意見__その2

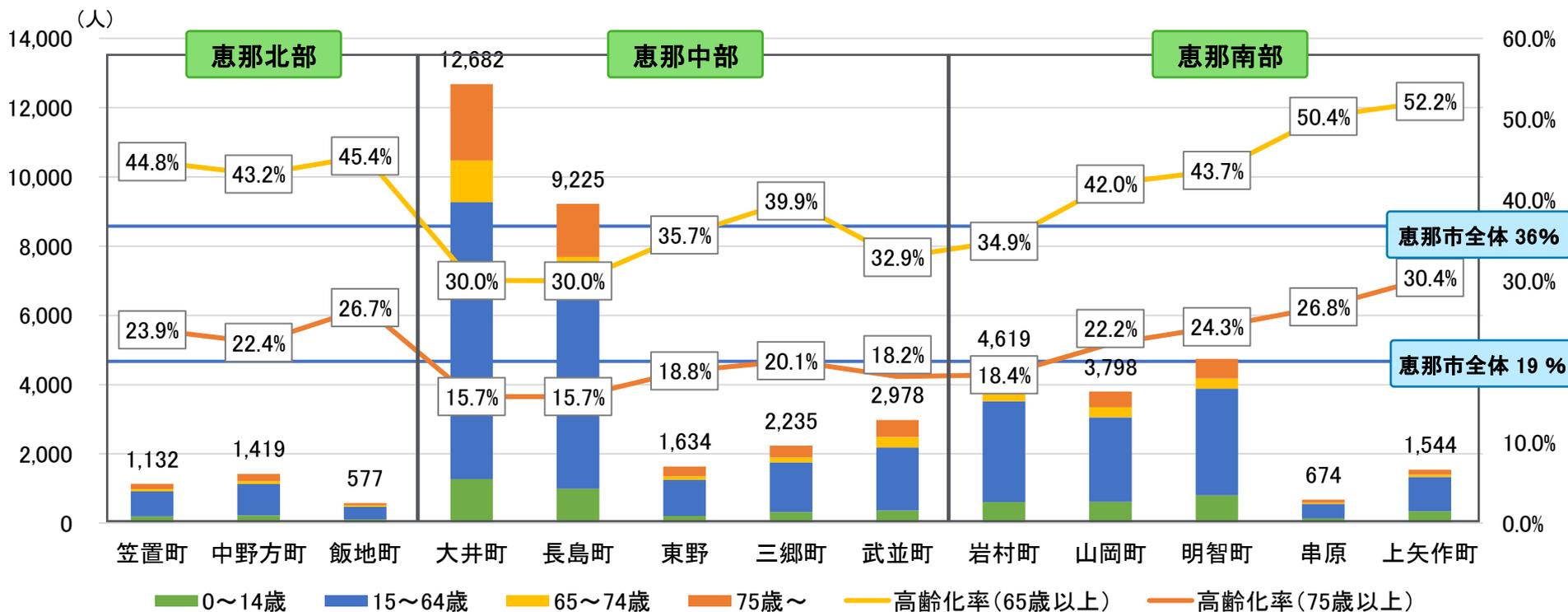
資料項目番号	意見内容
7.地域の医療の現状と課題(まとめ)	<ul style="list-style-type: none">● 国保診療所の人員構成を見ますと、医師1人、看護師1人、事務が1人で運用している。ある程度認知症状がある方や車いすが必要な方が来院することがありますが、このような少ない人数で本当に運用していけるのだろうかと思います。● 経営状況について、病院、診療所の単独の経営ではなく、病院・診療所間の連携を図り、効率的な経営をと記載がありますが、具体的にどのようなイメージでしょうか。経営上の連携というのはどのようなものでしょうか。経営上の連携に留まらず医療と高齢者福祉との連携も視野に入れて考えないと解決できないと思います。認知症の方が単独で病院に行かれるような事態をそもそも避けなければいけないと思います。● 串原の診療所の診療日が週1回になっていますが串原は無医村でしょうか。私も地域の交通機関を使いながら病院に通う状態でなんとかやっています。串原の方々はどこに行かれるのかなという心配があります。





1. 前回の振り返り

(1) 日常生活圏域における人口及び高齢化率



個数	笠置町	中野方町	飯地町	大井町	長島町	東野	三郷町	武並町	岩村町	山岡町	明智町	串原	上矢作町
診療所(病院)	0	2	1	7(1)	9	1	1	1	2	1	3	1	(1)
歯科	0	1	0	4	7	1	0	0	1	2	2	0	1
薬局	0	0	0	4	8	1	0	2	1	0	2	0	0

出所: 恵那市の人口データ_住民基本台帳(R5.4.1現在)

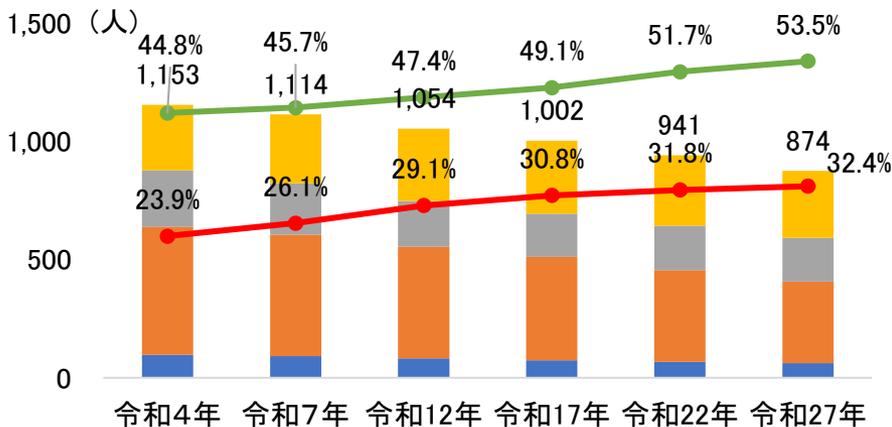




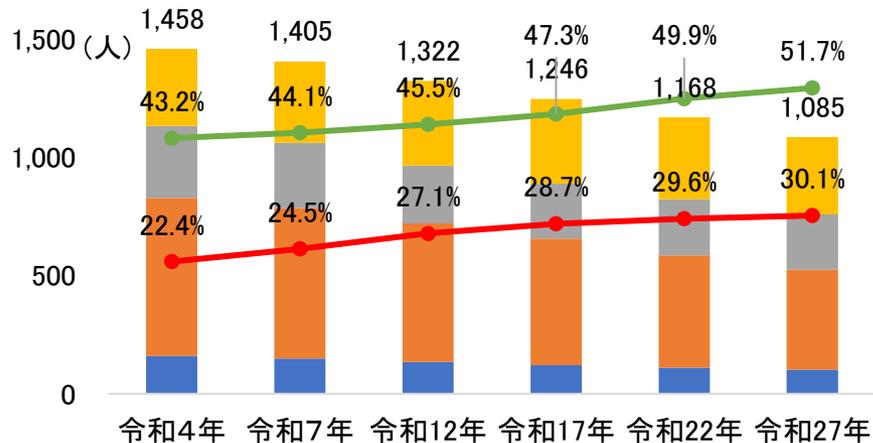
1. 前回の振り返り

(2) 日常生活圏域における推計人口及び高齢化率 その1

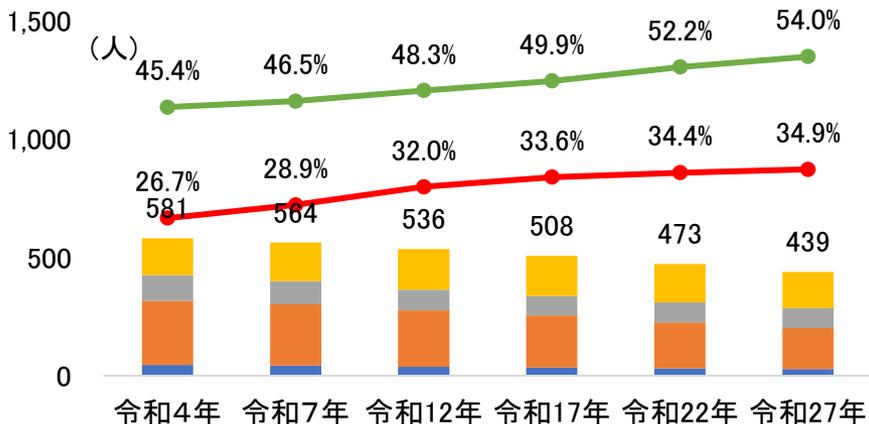
笠置町



中野方町



飯地町



恵那北部圏域(笠置・中野方・飯地)

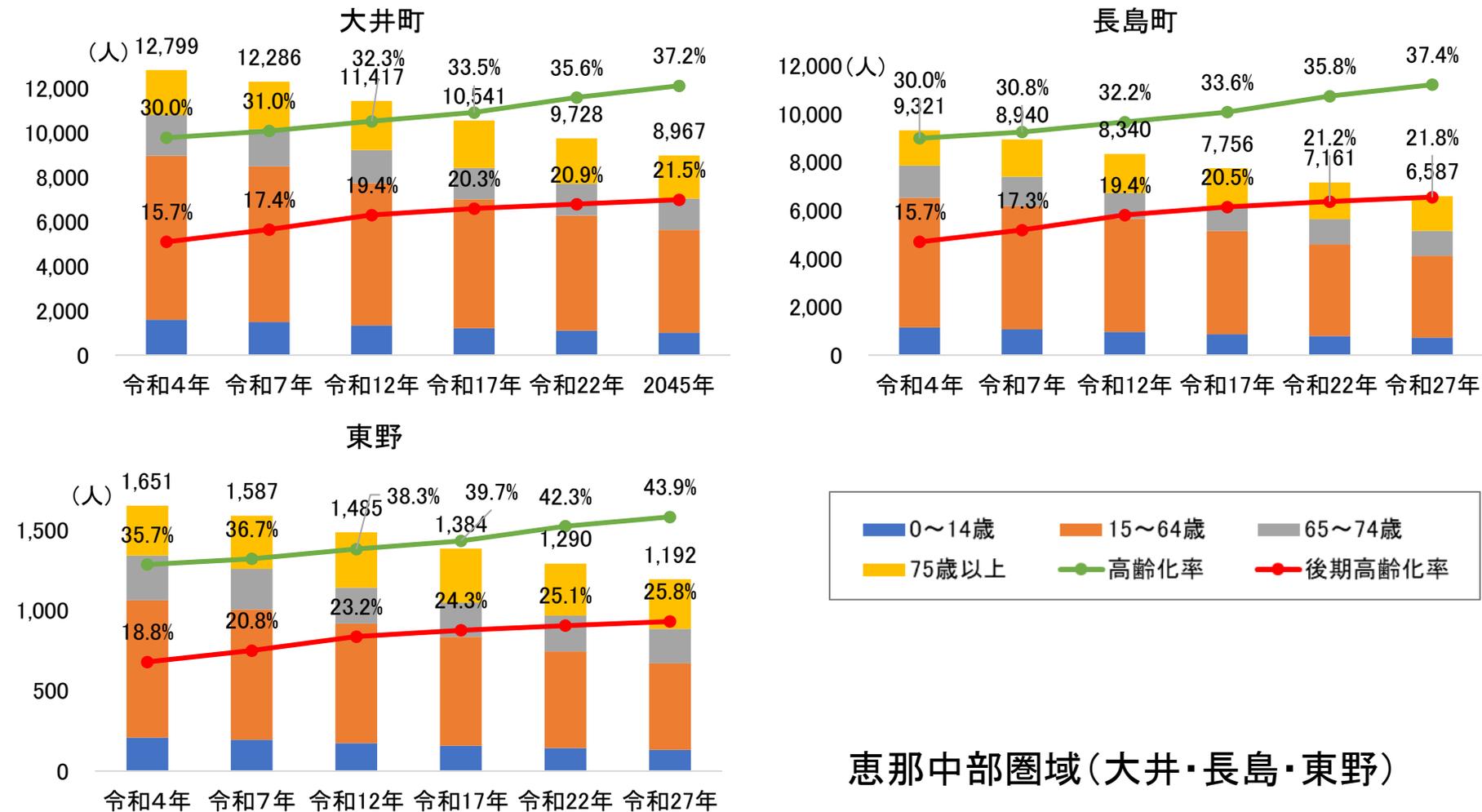
出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)及び恵那市の住民基本台帳(令和4年6月1日・日本人・外国人)」を基に作成





1. 前回の振り返り

(2) 日常生活圏域における推計人口及び高齢化率 その2



恵那中部圏域(大井・長島・東野)

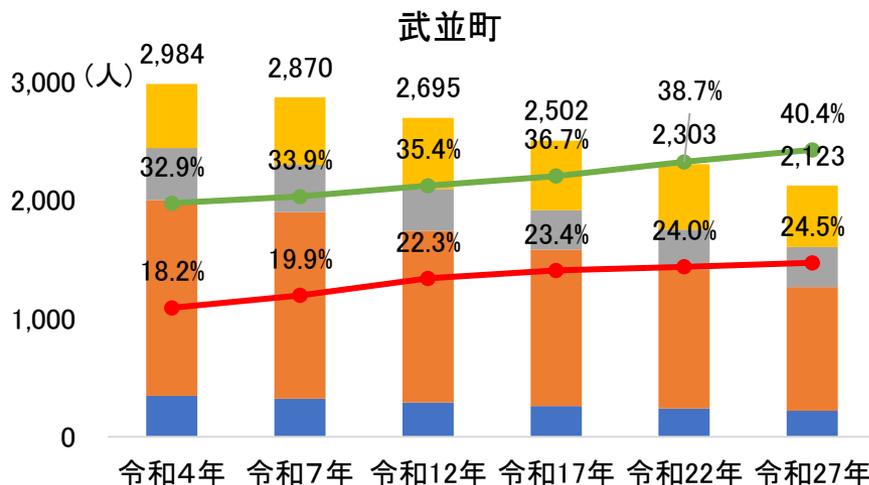
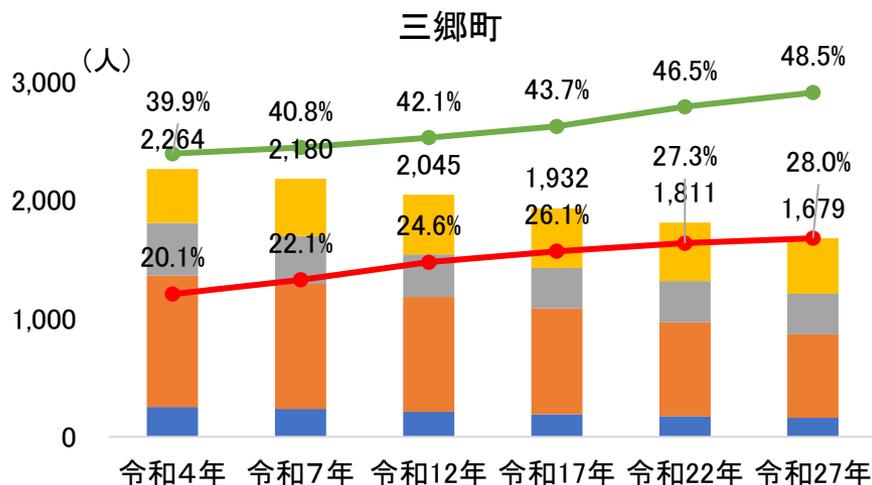
出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)及び恵那市の住民基本台帳(令和4年6月1日・日本人・外国人)」を基に作成





1. 前回の振り返り

(2) 日常生活圏域における推計人口及び高齢化率 その3



恵那中部圏域(三郷・武並)

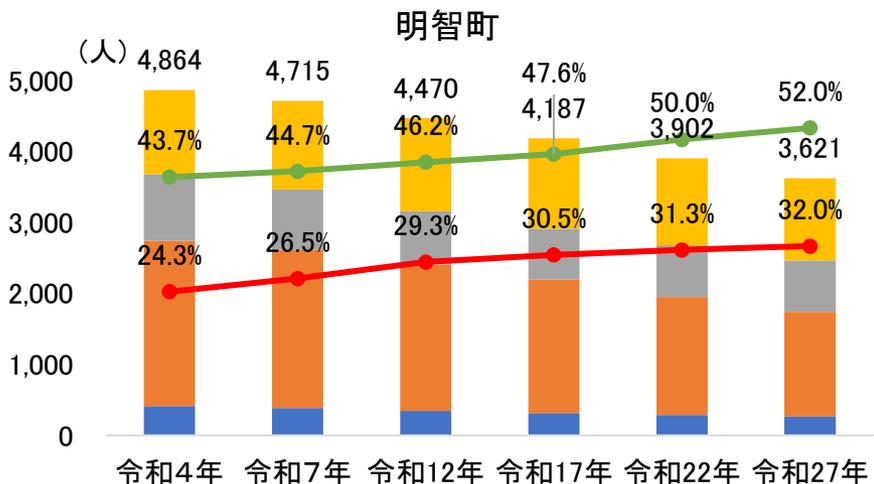
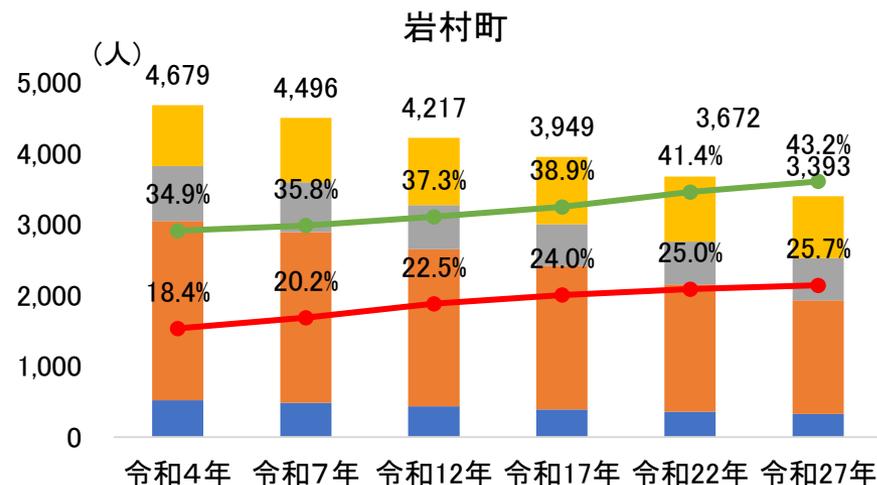
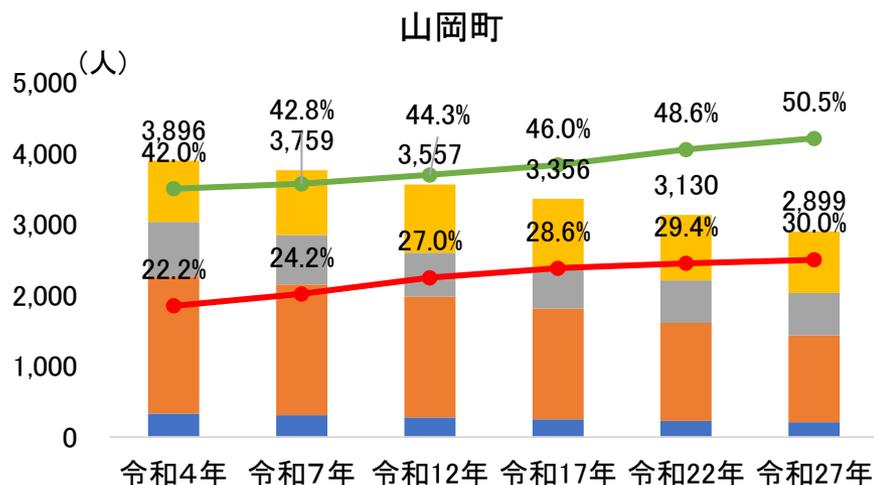
出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)及び恵那市の住民基本台帳(令和4年6月1日・日本人・外国人)」を基に作成





1. 前回の振り返り

(2) 日常生活圏域における推計人口及び高齢化率 その4



恵那南部圏域(岩村・山岡・明智)

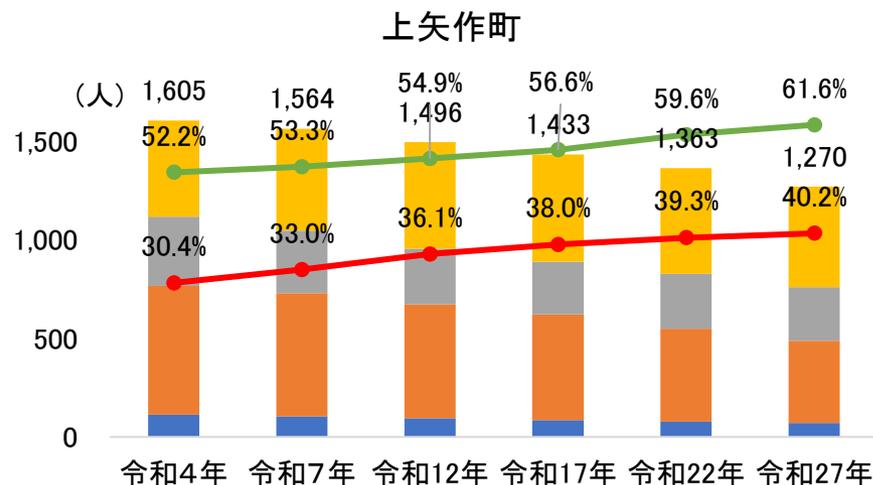
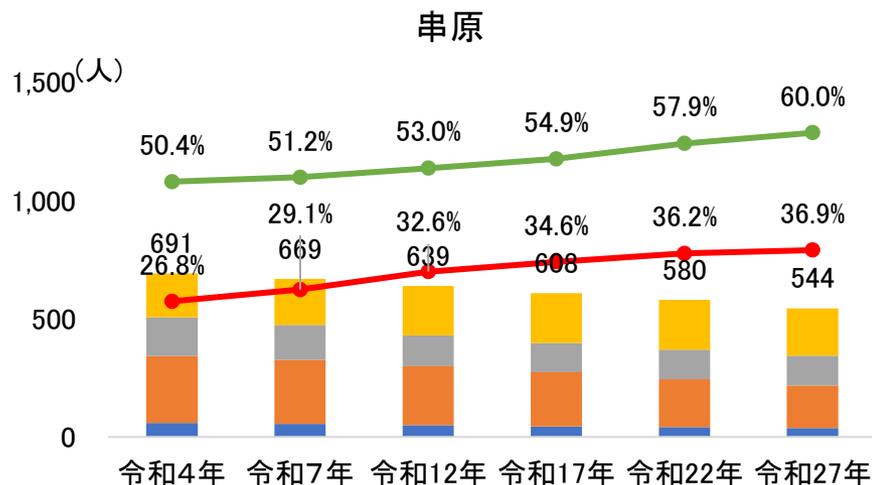
出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)及び恵那市の住民基本台帳(令和4年6月1日・日本人・外国人)」を基に作成





1. 前回の振り返り

(2) 日常生活圏域における推計人口及び高齢化率 その5



恵那南部圏域(串原・上矢作)

出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)及び恵那市の住民基本台帳(令和4年6月1日・日本人・外国人)」を基に作成





1. 前回の振り返り

(3)「へき地の医療」について

(厚生労働省ホームページより)

へき地※(離島におけるへき地を含む。)における医療の確保については、昭和31年度からへき地保健医療計画を策定し、各種対策を講じてきている

※へき地とは、「無医地区※1」、「準無医地区※2(無医地区に準じる地区)」などのへき地保健医療対策を実施することが必要とされている地域

※1無医地区とは、原則として医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点としておおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ容易に医療機関を利用することができない地区

※2準無医地区とは、無医地区ではないが、これに準じて医療の確保が必要と都道府県知事が判断し、厚生労働大臣が適当と認めた地区

※3準「無医地区」及び「準無医地区」を有する都道府県は千葉県、東京都、神奈川県、大阪府を除く43道府県



出所:厚生労働省 へき地医療について





＝補足＝

●国民健康保険診療施設とは

国民健康保険診療施設(以下、略称で「国保直診」という。)は、市町村が国民健康保険を行う事業の一つとして設置したものです。

地方自治体は、住民の福祉を増進する目的で「公の施設」を設置することができることになっており(地方自治法第244条)、その一つとして公立病院、公立診療所を設置しています。一方、国民健康保険事業を行う保険者である市町村は、国民健康保険の保健事業の一つとして病院、診療所を設置することができます(国民健康保険法第82条)。すなわち、国保直診は、地方自治法に基づき設置された「公の施設」であると同時に国民健康保険法に基づき設置された「病院、診療所」であります。

公立の病院、診療所は、医療水準の向上や民間医療機関の進出が期待できない地域における医療の確保等の必要性から設置されていますが、「国保直診」は、これらの事情に加えて、国民健康保険制度を広く普及するため無医地区等の医師不足の地域をなくす目的で設置されて、今日まで活動しています。





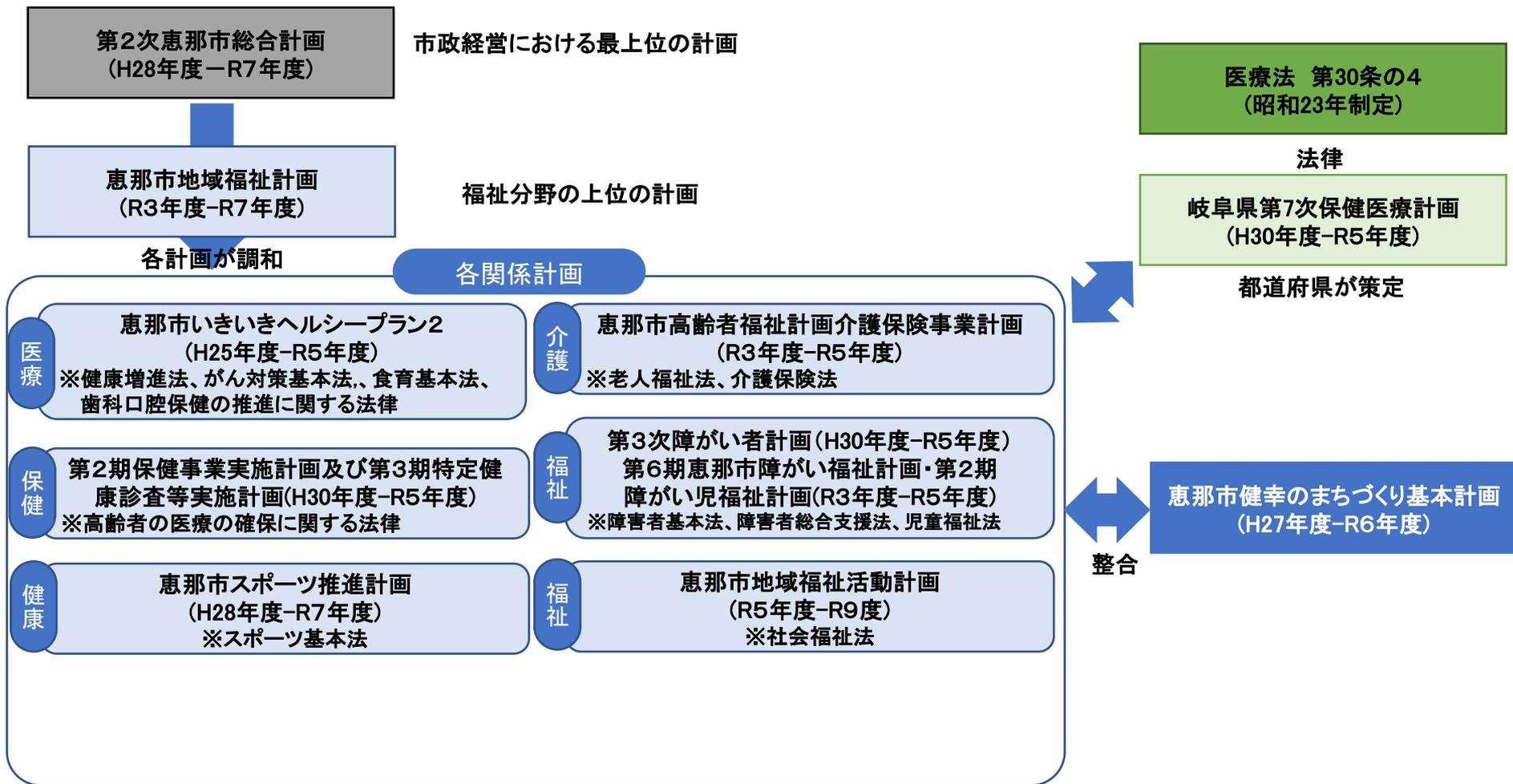
2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

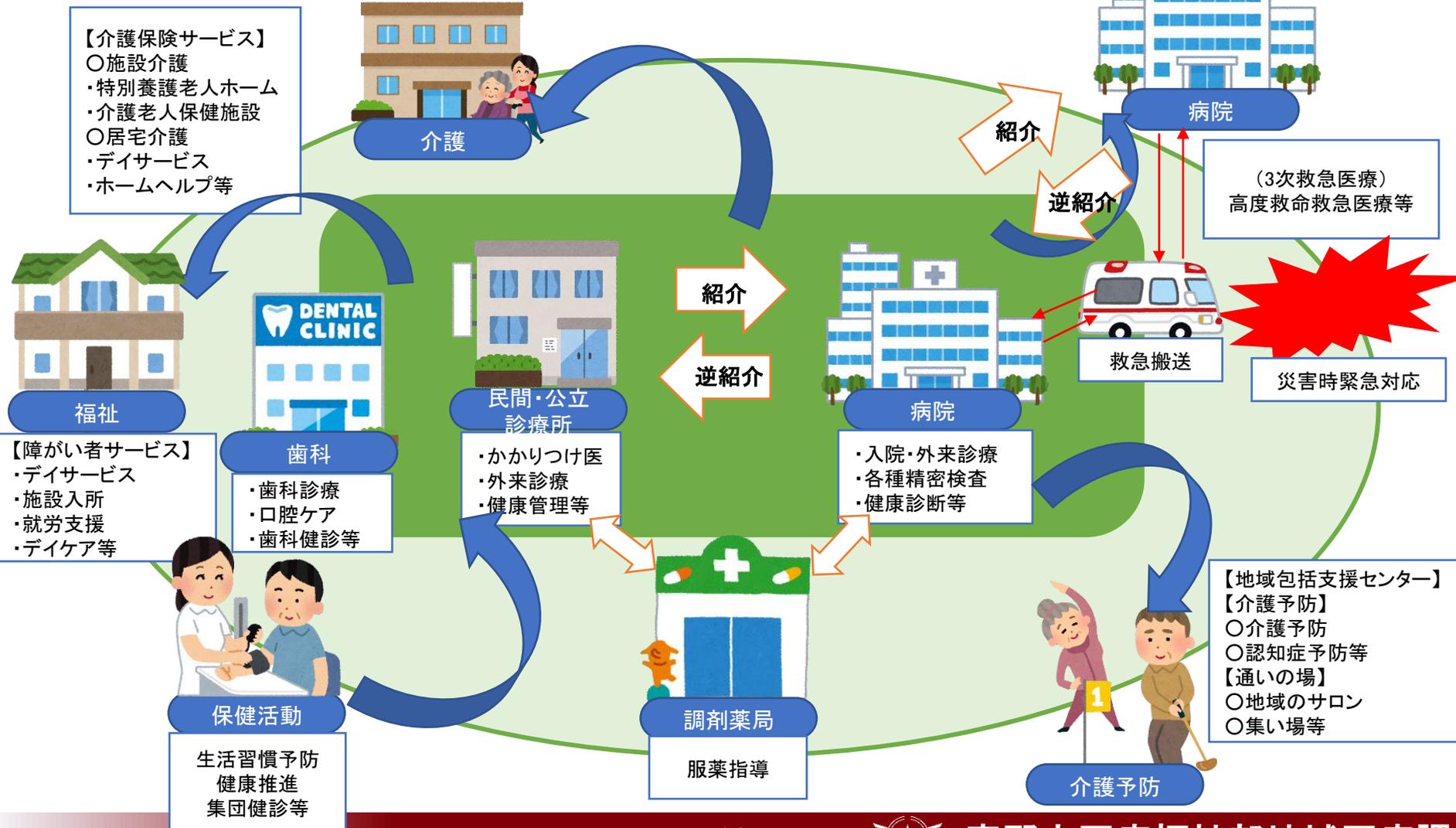
(1) 医療、保健、介護、福祉等の計画





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

(2) 医療、保健、介護、福祉等の関係図





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

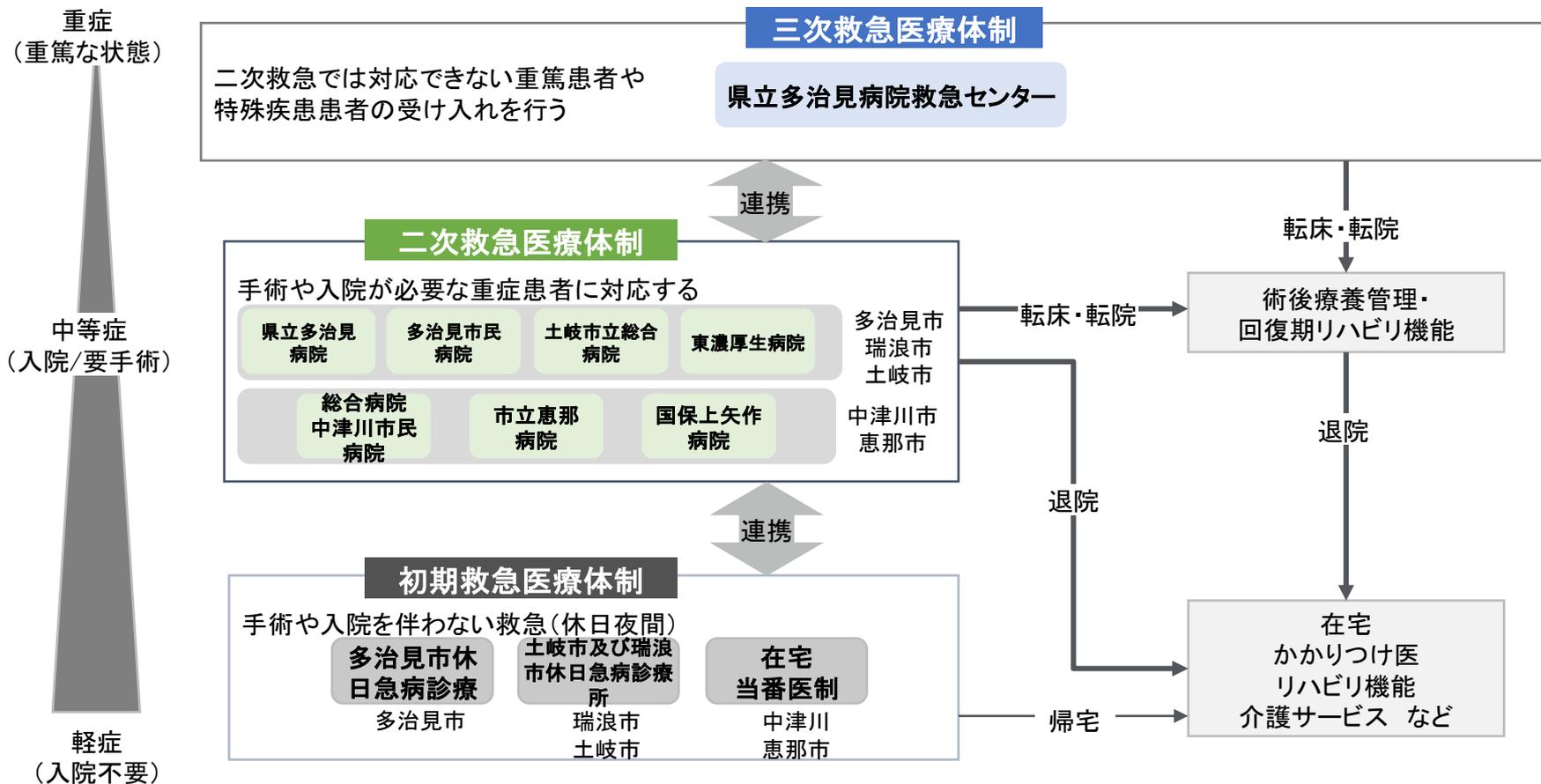
(別紙) 恵那市の医療機関及び歯科、薬局一覧





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

(3) 二次医療圏における救急体制図



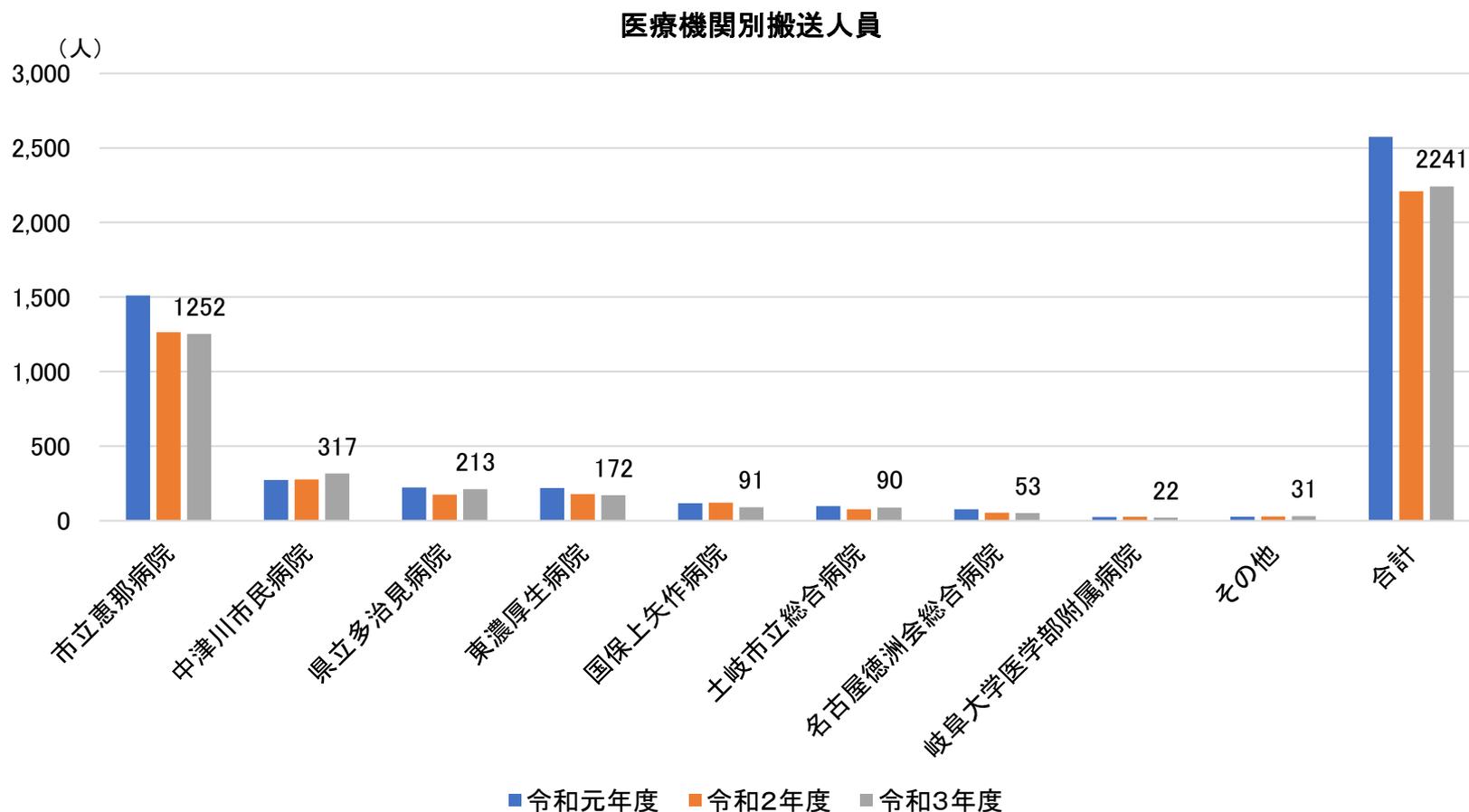
出所:第7次岐阜県保健医療計画より作成





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

(4) 恵那市消防の医療機関別搬送人員



出所：恵那市消防本部「消防年報(R1年度-R3年度)」より作成





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

個人情報データのにより作成した
資料のため非公開





2. 市内の医療・保健・介護・福祉・救急等の現状について

個人情報データのにより作成した
資料のため非公開





3. 各公立医療機関の現状と課題





3. 各公立医療機関の現状と課題

(1) 公立診療所__飯地診療所

①概要

	概要
医療機関名	国保飯地診療所
所在地	恵那市飯地町 68 番地 1
開設	昭和 29 年 4 月 (現建物竣工 昭和58年3月)
管理運営	恵那市
管理者	板橋 雄二
許可病床数	無床
標榜診療科	内科、外科、小児科
診療日	週5日(月・火・水・木・金)
職員数	常勤医師1人、常勤看護師1人、事務1人で運営
沿革	昭和58年3月に、飯地公民館・診療所としての複合施設が完成し、飯地や近隣地区の医療の中心としての役割を担ってきた。地域の健診事業や予防接種の実施、学校医として住民の健康保持に努めている。
施設概要	診療科目:内科、小児科 主な設備:X線装置、心電計、腹部超音波装置



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会 報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(1) ②現状と課題__飯地診療所

項目	現状	課題
建物	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年に施設が完成し、令和5年で40年が経過する ・令和4年度に改修(外装、電気のLED化、トイレ改修)を実施した ・飯地コミセン・振興事務所と併設 ・鉄筋コンクリート2階建て 	—
立地及び通いの手段	<ul style="list-style-type: none"> ・険しい断崖が続く山道を登った先に集落があり、診療所は頂上付近に設置されている ・自家用車、家族による送迎 ・いいじ里山バスを利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
診療所の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤医師1人、常勤看護師1人、事務1人(委託)で運営している ・月・火・木・金 14:00-16:00は訪問診療(1日患者数3-4人) ・休診する時は事前に町内放送、診療所玄関に貼り出して告知している。外来に通えない患者が多く、訪問診療の需要が多い ・飯地町内には調剤薬局がなく、院内処方を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤医師1人で外来、訪問診療を実施しており、不測の事態に備え体制強化が必要である ・院内処方のため、薬剤を揃える必要がある ・人口減少に伴い患者数及び診療収入が減少している
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市立恵那病院へ紹介している ・緊急性がある場合は救急車を呼ぶよう案内している ・住民が訪問看護などサービスの利用の仕方、サービスそのものを知らないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と連携し、サービスの周知が必要である
収支	<ul style="list-style-type: none"> ・外来診療による収入は約4,000万～4,600万円で運営にかかる費用は、約5,600万～6,000万円である ・運営維持のため、市及び国保調整交付金など1,500万～1,800万円の負担及び補助金を補填している なお、市の負担金の財源は地方交付税で措置されている 	—

出所：恵那市作成データ及び管理者等へのヒアリングより作成

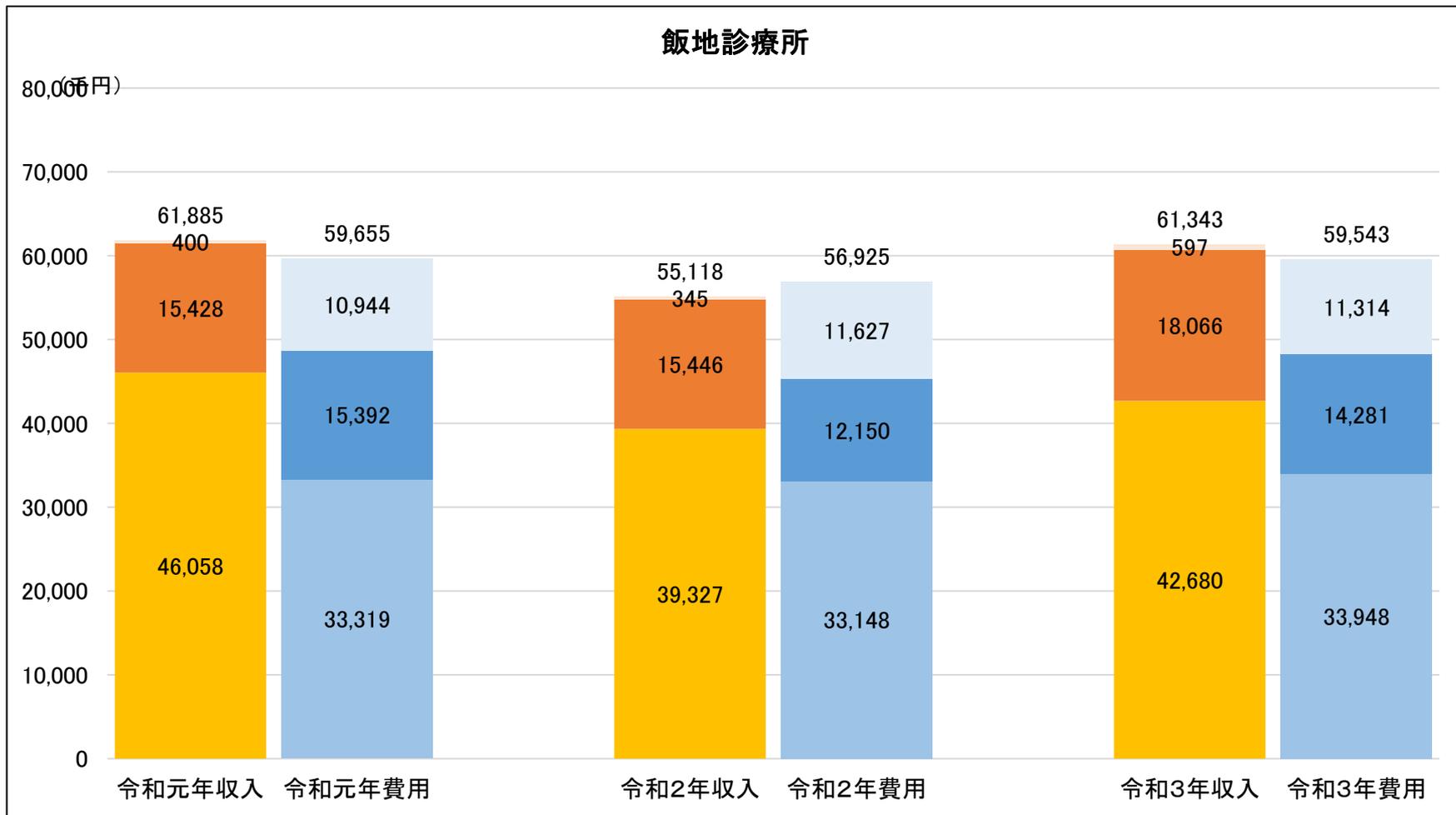




3. 各公立医療機関の現状と課題

(1) ③収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 負担金等収入 ■ その他収入
費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



出所: 恵那市国民健康保険診療所事業決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(2) 公立診療所__三郷診療所

①概要

	概要
医療機関名	国保三郷診療所
所在地	恵那市三郷町佐々良木 1836 番地 1
開設	昭和 28 年 4 月 (現建物竣工 昭和60年3月)
管理運営	恵那市
管理者	重光 良雄
許可病床数	無床
標榜診療科	内科、外科、小児科
診療日	週5日(月・火・水・木・金)
職員数	嘱託医師1人、看護師1人、事務1人で運営
沿革	・昭和60年3月に現施設が完成し、三郷地区の医療の中心としての役割を担ってきた。地域の健診事業や予防接種の実施、学校医として住民の健康保持に努めている。
施設概要	診療科目:内科、小児科 主な設備:X線装置、心電計、腹部超音波装置、薬剤分包機



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会 報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(2) ②現状と課題__三郷診療所

項目	現状	課題
施設	<ul style="list-style-type: none"> •昭和60年に施設が完成し、令和5年で38年が経過する •トイレ改修工事实施(令和4年度) •鉄筋コンクリート平屋建て 	—
立地及び通いの手段	<ul style="list-style-type: none"> •県道から急な坂道を登った所に設置されている •自家用車、家族による送迎 	<ul style="list-style-type: none"> •坂の上に設置されていることから、歩行が困難な患者は徒歩で通うことが難しい •家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
診療所の運営	<ul style="list-style-type: none"> •嘱託医師1人、看護師1人、事務1人(委託)で運営している •医師が高齢である •三郷町内には調剤薬局がなく、院内処方である 	<ul style="list-style-type: none"> •嘱託医師1人で外来を実施しており、不測の事態に備え体制強化が必要である •院内処方のため、薬剤を揃える必要がある •人口減少に伴い患者数及び診療収入が減少している
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> •市立恵那病院、中津川市民病院、東濃厚生病院、名古屋徳洲会総合病院へ紹介している •循環器系疾患は市街地のクリニックへ紹介している 	—
収支	<ul style="list-style-type: none"> •外来診療による収入は約2,400万～3,000万円で運営にかかる費用は、約3,600万～3,900万円である •運営維持のため、市及び国保調整交付金など1,000万～1,300万円の負担及び補助金を補填している なお、市の負担金の財源は地方交付税で措置されている 	—

出所：恵那市作成データ及び管理者等へのヒアリングより作成

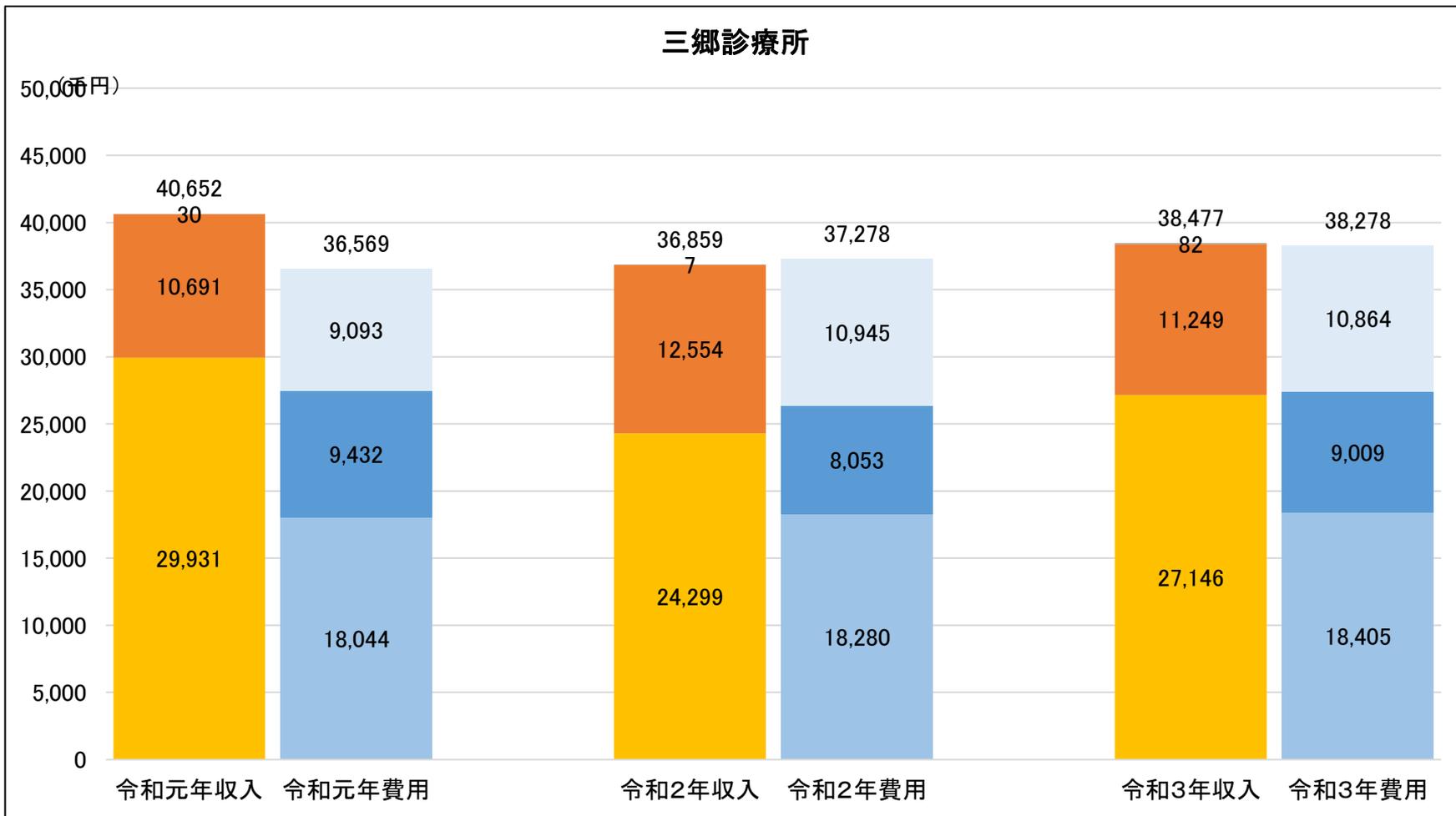




3. 各公立医療機関の現状と課題

(2) ③収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 負担金等収入 ■ その他収入
 費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



出所: 恵那市国民健康保険診療所事業決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(3) 公立診療所__岩村診療所(恵那市透析センター)

①概要

	概要
医療機関名	国保岩村診療所(恵那市透析センター)
所在地	恵那市岩村町 1650 番地 1
開設	昭和 28年(現建物竣工 昭和55年5月)
管理運営	恵那市
管理者	前野 禎
許可病床数	無床
標榜診療科	内科、耳鼻咽喉科、整形外科、リハビリテーション科、小児科
診療日	週5日(月・火・水・木・金)
職員数	医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等15人で運営
沿革	・昭和28年国民健康保険直営病院として開設。その後、助産所 や伝染病舎を併設し業務を行ってきた。施設の老朽化により、昭和 55年5月に病床数19床の診療所として、平成19年度まで入院患者を受け入れてきた。平成20年度には入院施設を廃止し、平成21年度から恵那市透析センターを開設。患者さん中心の温かい医療を目指し、患者さんの社会的、精神的かつ肉体的健康を守るために奉仕することを使命として、地域住民の健康保持に努めている。

	概要
施設概要	主な設備:各種血液検査装置、X線一般撮影装置、心電図検査装置、超音波診断装置、骨密度測定装置、血圧脈波検査装置、聴力検査装置、低周波治療器、超音波治療器、牽引器 その他の業務:健康診断、訪問リハビリテーション



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会 報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(3) ②現状と課題__岩村診療所(恵那市透析センター)

項目	現状	課題
施設	<ul style="list-style-type: none"> 昭和55年に施設が完成し、令和5年で43年が経過する 平成21年に恵那市透析センターを開設 放射線室、検査室、リハビリ室がある 鉄筋コンクリート2階建て 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の老朽化が著しい 空調機器、配管、電気設備等の更新が必要 建物の補強等工事が必要 <p>※参考: 減価償却資産の耐用年数は鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造のもの(病院用のもの)39年</p>
立地及び通いの手段	<ul style="list-style-type: none"> 岩村町の中心地に設置 自家用車、家族による送迎 岩村デマンド交通よやくる号 明知鉄道が敷設 	<ul style="list-style-type: none"> 家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
診療所の運営	<ul style="list-style-type: none"> 医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等15人で運営している 外来、透析、医療相談を常勤医師1人対応している 透析は月・水・金、火・木・土の2クールで実施 午後に訪問リハビリテーションを実施 調剤薬局による院外処方 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医師が外来、透析、医療相談を1人で対応しており、不測の事態に備え体制強化が必要である
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 市立恵那病院、東濃厚生病院、森川クリニックへ紹介している 市立恵那病院や他の医療圏内の医療機関と連携をしている 過去には訪問診療を実施していたが、1人体制では限界のため、訪問診療専門のクリニックに紹介している 福祉・介護などの相談が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問診療の需要はあるが、医師1人では外来、透析等と並行して実施することは負担が大きく、体制を強化する必要がある
収支	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療による収入は約16,600万～19,000万円で運営にかかる費用は、約27,900万～28,200万円である 運営維持のため、市で9,100万～11,000万円の負担金を補填している <p>なお、市の負担金の財源は地方交付税で措置されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療による収入、経費等の見直しが必要

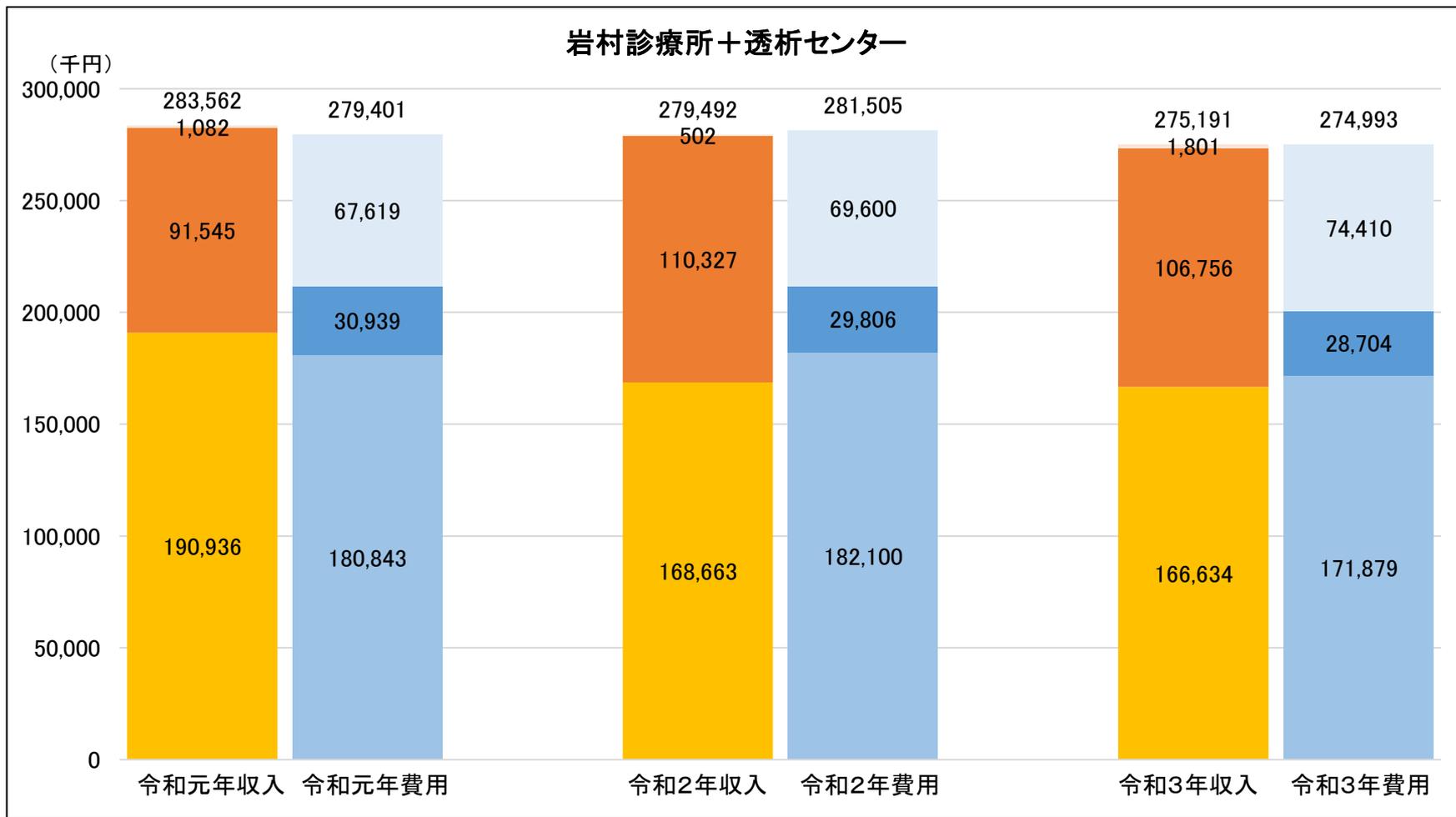




3. 各公立医療機関の現状と課題

(3) ③ 収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 負担金等収入 ■ その他収入
 費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



出所: 恵那市国民健康保険診療所事業決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(4) 公立診療所__山岡診療所

①概要

	概要
医療機関名	国保山岡診療所
所在地	恵那市山岡町上手向 595 番地
開設	昭和 45 年 5 月(現建物竣工 平成16年5月)
管理運営	指定管理者制度:公益社団法人 地域医療振興協会
管理者	改田 哲
許可病床数	無床
標榜診療科	内科、整形外科、小児科 胃腸科、放射線科
職員数	常勤医師1人、他看護師等の総勢6人で運営
沿革	平成16年5月に保健・福祉・医療・介護の複合施設「健康プラザ」として開設。町内唯一の医療機関として地域住民が期待と信頼を寄せる重要な役割を担っていることを念頭に置き、住民が安心・安全な社会生活を営むことができるよう健康の保持 増進に努めている。令和4年度歯科廃止。
施設概要	主な設備:上部・下部内視鏡装置、X線装置、腹部エコー、心電計、視力検査装置、薬剤分包機 他の業務:在宅訪問診療、往診、訪問看護、ショートステイ回診、ふれあいサロン講話



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会 報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(4) ②現状と課題__山岡診療所

項目	現状	課題
施設	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年5月に保健・福祉・医療・介護の複合施設「健康プラザ」として開設。 令和4年度から令和7年度にかけて大規模改修を実施中 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器の老朽化に伴う更新
立地及び通いの手段	<ul style="list-style-type: none"> 山岡町の中心地に設置 自家用車、家族による送迎 市立恵那病院コミュニティバス 明知鉄道が敷設 	<ul style="list-style-type: none"> 家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
診療所の運営	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理施設として、公益社団法人地域医療振興協会が運営している 医師、看護師等6人で運営している 外来、医療相談を常勤医師1人対応している 市立恵那病院訪問看護ステーションのサテライト 	<ul style="list-style-type: none"> 医療相談を多職種で行うなどのチーム医療の充実 診療所職員の高齢化
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 市立恵那病院、東濃厚生病院へ紹介している 市立恵那病院や他の医療圏内の医療機関と連携をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問診療の需要はあるが、医師1人では外来等と並行して実施することは負担が大きいため、他医療機関との連携などの体制を強化する必要がある
収支	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理年度協定に基づき運営交付金を交付している 	—

出所：恵那市作成データ及び管理者等へのヒアリングより作成

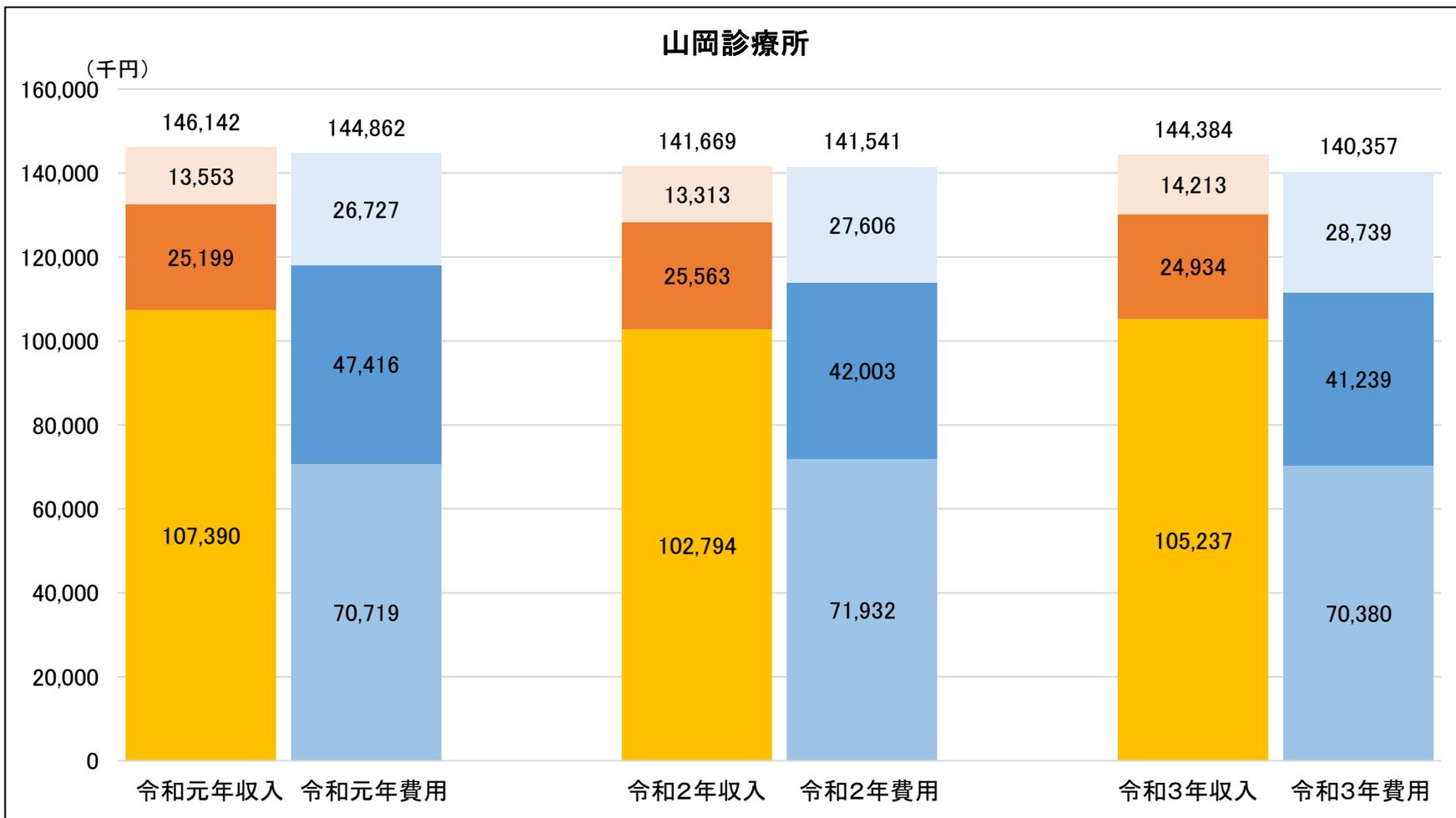




3. 各公立医療機関の現状と課題

(4) ③ 収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 交付金等収入 ■ その他収入
 費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



出所：恵那市国民健康保険診療所事業決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(5) 公立診療所__串原診療所

①概要

	概要
医療機関名	国保串原診療所
所在地	恵那市串原 3171 番地 1
開設	昭和 62 年 10 月(現建物竣工 昭和62年10月)
管理運営	恵那市
管理者	村瀬 奈佑
許可病床数	無床
標榜診療科	内科、外科、小児科
診療日	週1日(火)
職員数	上矢作病院から週1回医師、看護師、薬剤師、事務が出向き運営
沿革	国保串原診療所の医療業務については、国保上矢作病院に委託し、週 1 回の診療をしている。無医地区である当該地域の診療所として、住民の診療はもとより、予防接種や学童の健康診断など、地域に密着した医療を実施している。
施設概要	主な設備:心電計、錠剤分包機



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会
報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(5) ②現状と課題__串原診療所

項目	現状	課題
施設	・昭和62年に施設が完成し、令和5年で36年が経過する	—
立地及び通いの手段	・岐阜県と愛知県の県境に位置する ・串原の中心地に設置 ・自家用車、家族による送迎 ・自主運行バス(串原ささゆり線) ・くしばすを利用	・家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
診療所の運営	・上矢作病院から週1回医師、看護師、薬剤師、事務が出向き診療所を運営している	—
医療機関や福祉・介護との連携	・上矢作病院へ紹介するなど連携を図っている ・福祉センターが併設されている	—
収支	・外来診療による収入は約560万～650万円で運営にかかる費用は、約1,100万円である ・給与費は委託のため発生しない ・運営維持のため、市及び国保調整交付金など520万～600万円の負担及び補助金を補填している なお、市の負担金の財源は地方交付税で措置されている	—

出所：恵那市作成データ及び管理者等へのヒアリングより作成

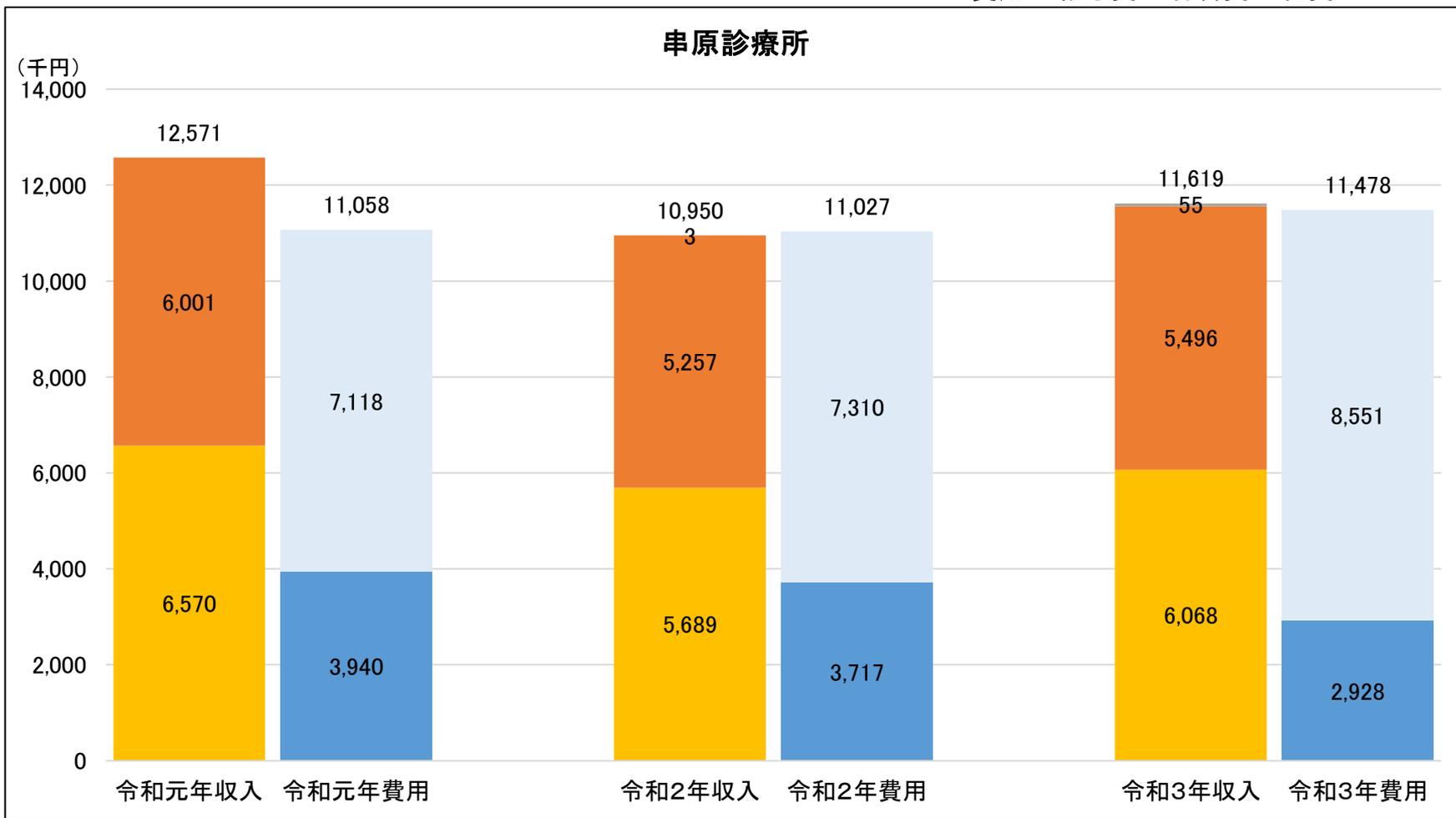




3. 各公立医療機関の現状と課題

(5) ③ 収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 負担金等収入 ■ その他収入
費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



出所：恵那市国民健康保険診療所事業決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(6) 公立診療所__上矢作歯科診療所

①概要

	概要
医療機関名	国保上矢作歯科診療所
所在地	恵那市上矢作町2975番地1
開設	昭和58年4月
管理運営	恵那市
管理者	石黒 幸司
許可病床数	無床
標榜診療科	歯科、小児歯科
診療日	週5日(月・火・水・木・金)
職員数	医師、歯科衛生士、歯科助手の3名で運営
沿革	民間医療機関の進出が期待できない地域での医療を確保するために、口腔歯科衛生の向上及び増進、調査研究を行い、地域住民の「予防と診療の一体的提供」に貢献するため、歯科医師含め3人のスタッフで診療を行っている。
施設概要	主な設備:診療チェア4台、X線装置(パノラマ1台、デジタル1台)



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会
報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(6) ②現状と課題__上矢作歯科診療所

項目	現状	課題
施設	<ul style="list-style-type: none"> 昭和58年に施設が完成し、令和5年で40年が経過する 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の老朽化が進んでいる ※参考: 減価償却資産の耐用年数は鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造のもの(病院用のもの)39年
立地及び通いの手段	<ul style="list-style-type: none"> 国保上矢作病院付近に位置する 自家用車、家族による送迎 恵那市自主運行バス(上矢作線・一部時間デマンド) 国保上矢作病院のバスに乗車している(予約制) 	<ul style="list-style-type: none"> 家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
診療所の運営	<ul style="list-style-type: none"> 歯科医師、歯科衛生士、歯科助手の3人で運営している 	<ul style="list-style-type: none"> 患者数の減少により経営が困難
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 口腔外科などは、中津川市民病院などへ紹介している 	-
収支	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療による収入は約2,000万～2,300万円で運営にかかる費用は、約3,800万～3,900万円である 運営維持のため、市及び国保調整交付金など1,600万～1,900万円の負担及び補助金を補填している なお、市の負担金の財源は地方交付税で措置されている 	<ul style="list-style-type: none"> 給与費が外来診療による収入を上回っている

出所: 恵那市作成データ及び管理者等へのヒアリングより作成

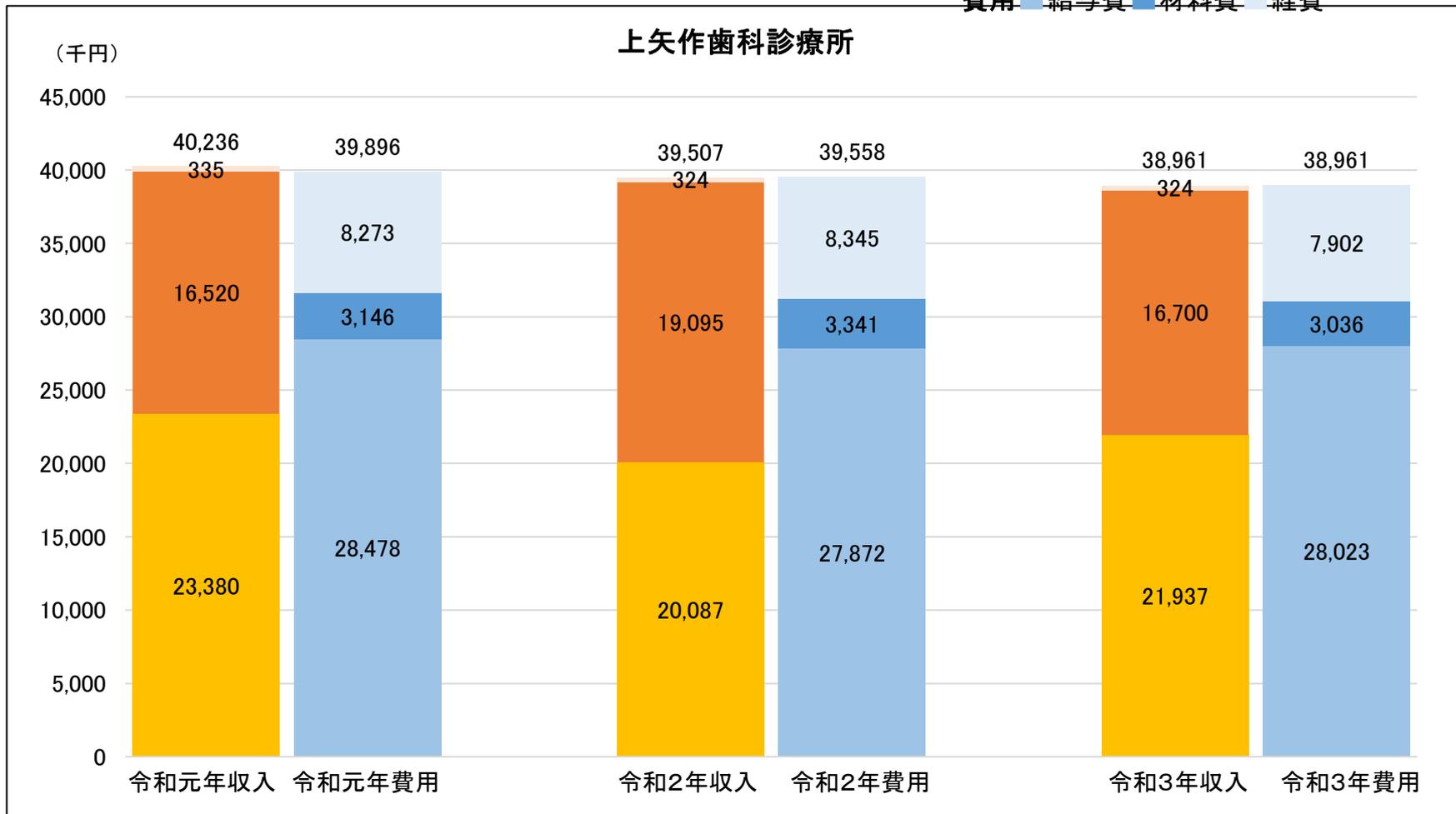




3. 各公立医療機関の現状と課題

(6) ③ 収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 負担金等収入 ■ その他収入
 費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



出所：恵那市国民健康保険診療所事業決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(7) 公立病院__市立恵那病院

①概要

	概要
医療機関名	市立恵那病院
所在地	恵那市大井町 2725 番地
開設	平成 15 年 12 月 (現建物竣工 平成28年11月)
管理運営	指定管理者 公益社団法人 地域医療振興協会
管理者	山田 誠史 (R5.7.1～)
許可病床数	199床 (一般病床148床・回復期リハビリテーション病棟51床)
標榜診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、老年内科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、肛門外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、救急科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、脳神経外科の21診療科と血液浄化センター(人工透析)、腫瘍総合ケアセンター(化学療法室)
診療日	週6日(月・火・水・木・金・土曜午前)
職員数	常勤医師19人、その他常勤職員274人で運営

	概要
沿革	平成15年12月に国の「国立病院・療養所再編成計画」により、国立療養所恵那病院が市(旧恵那市)に経営移譲され、市民の地域医療を担う医療施設として開設された。民間のノウハウを最大限活用した運営を行うため、「公益社団法人地域医療振興協会」が指定管理者となり管理運営を行っている。平成28年11月に、新たに市立恵那病院を開設し産婦人科、血液浄化センター、腫瘍総合ケアセンター、健康管理センターを設置した。



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会 報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(7) ②現状と課題__市立恵那病院

項目	現状	課題
施設	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年11月に新病院として開設 RC造4階建て 	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法12条定期調査を実地し、指摘事項は是正している 中長期的に改修工事等の計画的に行う必要がある 高額医療機器等を計画的に行う必要がある
立地及び通い的手段	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車、家族による送迎 公共交通機関(恵那市自主運行バス・恵那市まちなか巡回バス) コミュニティバスを病院で運行している 	<ul style="list-style-type: none"> 家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある
病院の運営	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者施設として、公益社団法人地域医療振興協会が運営している 救急告示病院(先ず診る姿勢で受入数の増加) 高度医療機器共同利用 産婦人科分娩数が年度ごとに増加している 血液浄化センター 通所リハビリテーション事業 訪問看護ステーション事業 新興感染症の受入(重点医療機関) 	<ul style="list-style-type: none"> 血液浄化センターの患者数増加に向けて職員等の採用が必要 在宅医療の需要が増加することにより、訪問看護ステーションのニーズが増えている 分娩数の増加により助産師等の確保が必要 専門医等の常勤医師の採用に苦慮している
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 東濃医療圏内の医療機関と連携を図っている 外科・内視鏡治療は岐大、小児科は名市大、眼科は愛知医大、産婦人科は愛知医大と松波総合病院、協会関連施設、耳鼻科は藤田医科大、整形外科は愛知医大と藤田医科大、循環器と脳外は名古屋徳洲会病院、内科総合診療は協会関連施設と連携している ヘリポートを設置しており、緊急性の高い患者輸送に利用している 	<ul style="list-style-type: none"> より専門性の高い医療は、中央(大病院)で行われ、地方の病院(中小病院)は回復期を担当する方向性が示されている 2024年は医療と介護のW改定時期、地域包括医療の方向性がカギとなる 医療人材も高齢化する中、AIの進歩、ICTを駆使した新しい医療(在宅も含む)を展開する必要がある 当院としては、総合診療医の育成に力を入れ、在宅医療、へき地支援医療を展開する必要がある
収支	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理年度協定に基づき運営交付金を交付している 	—

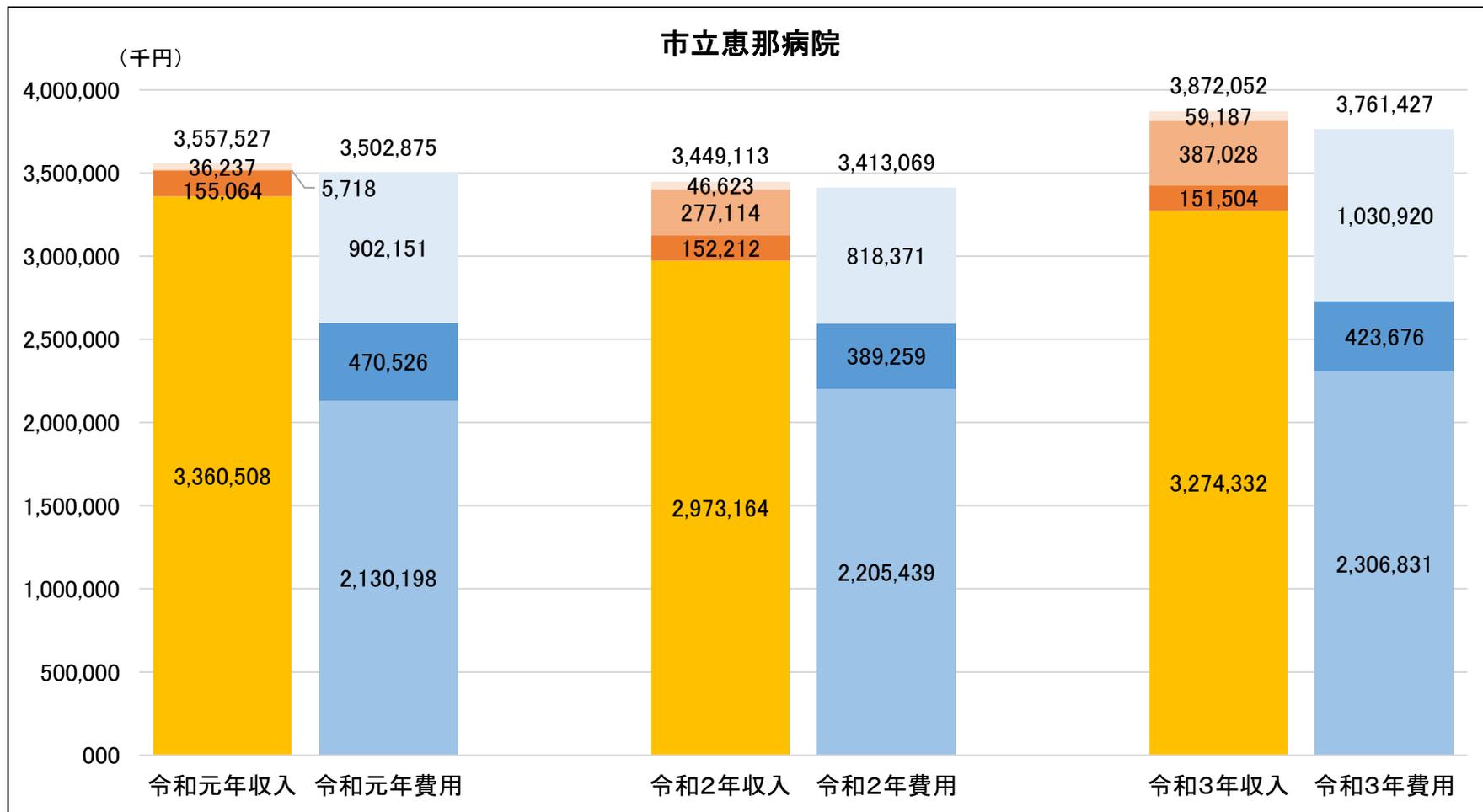




3. 各公立医療機関の現状と課題

(7)③収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 交付金収入 ■ コロナ補助金等収入 ■ その他収入
 費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



* 令和2・3年度補助金等収入は新型コロナウイルス感染症受入関連の補助金含む

出所: 恵那市病院事業決算報告書、市立恵那病院決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(8) 公立病院__国保上矢作病院

①概要

	概要
医療機関名	国保上矢作病院
所在地	恵那市上矢作町 3111 番地 2
開設	昭和52年4月(現建物竣工 昭和52年4月)
管理運営	恵那市
管理者	西脇 巨記
許可病床数	56床
標榜診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、肛門外科、整形外科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科の12診療科
診療日	週5日(月・火・水・木・金)
職員数	常勤医師3人、医療従事者を含め55人で運営

	概要
沿革	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年に国民健康保険上矢作診療所として創設。その後、昭和52年に国民健康保険上矢作病院として、病床数50床、常勤医師4人体制で再スタートした。以後、昭和53年には60床に増床し、平成8年には高齢化に伴う在宅医療に対応するため、訪問看護ステーションを併設、さらに平成15年には60床のうち22床を療養型病床に、34床を一般病床に変更し運営してきた。現在は地域包括ケア病棟37床、一般病棟19床の合計56病床で運営している。 ・名古屋市立大学病院の医師派遣による救急医療を確立し、かみやばぎ総合保健福祉センターとの連携を図り、福祉・介護・予防に至るまで、包括的な医療を展開している。



出所: 恵那市ホームページ及び恵那市公立病院等の在り方検討委員会 報告書平成23年7月22日より抜粋





3. 各公立医療機関の現状と課題

(8) ②現状と課題__国保上矢作病院

内部環境	現状	課題
建物	<ul style="list-style-type: none"> 昭和50年施設本体を建設、その後増築を行い、昭和52年に施設が完成、令和5年で46年が経過する。 耐震補強工事は実施済み(土地は民地の借地) 建設当時の施設基準で運営、廊下幅、病床面積が狭い 2階の病棟が増築区分により2つのフロアで分けられ、ナースステーションが2ヶ所ある 施設設備等の老朽化が著しい 鉄筋コンクリート2階建て 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備等の老朽化が著しく、耐用年数も大幅に過ぎていることから、検討する必要がある 空調機器、配管、電気設備等の更新が必要 建築基準法12条定期調査を実地し、指摘事項は是正している 病棟が2つのフロアで分かれているため効率的な運営が難しい ※参考: 減価償却資産の耐用年数は鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造のもの(病院用のもの)39年
立地及び通いの手段	<ul style="list-style-type: none"> 病院よりバスを運行している(予約制) 自家用車、家族の送迎 恵那市自主運行バス(上矢作線・一部時間デマンド) 	<ul style="list-style-type: none"> 家族が不在の場合、通院が困難となる可能性がある 病院からバスを運行しなかった場合、通院が困難となる可能性がある
病院の運営	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医師3人(1人は岐阜県より派遣医師)、医療従事者を含め55人で運営している 看護師の確保が難しく、病棟配置基準をなんとか保持しているのが現状である 週1回、串原診療所に医師、薬剤師、看護師、事務が4人が出向している 救急告示病院である 訪問看護ステーション事業を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 病棟配置基準を満たすための看護師の確保が非常に困難になっている 医師研修制度や医師の働き方改革などにより、大学からの常勤医師の派遣が困難なため、非常勤医師による診療を余儀なくされている。 常勤医師の確保が困難なため、岐阜県から串原診療所に派遣されている医師に診療等をお願いしている 上矢作町の高齢化が進み、在宅医療の需要が増えており、対応が必要となっている
医療機関や福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 医療圏内の医療機関と連携を図っている 医療ソーシャルワーカーが退院調整をしている。 	—
収支	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療による収入は約56,800万～68,100万円で運営にかかる費用は、約91,000万～95,000万円である 運営維持のため、市から17,000万～18,000万円の負担及び補助金を補填している なお、市の負担金の財源は地方交付税で措置されている 	—

出所: 恵那市作成データ及び管理者等へのヒアリングより作成

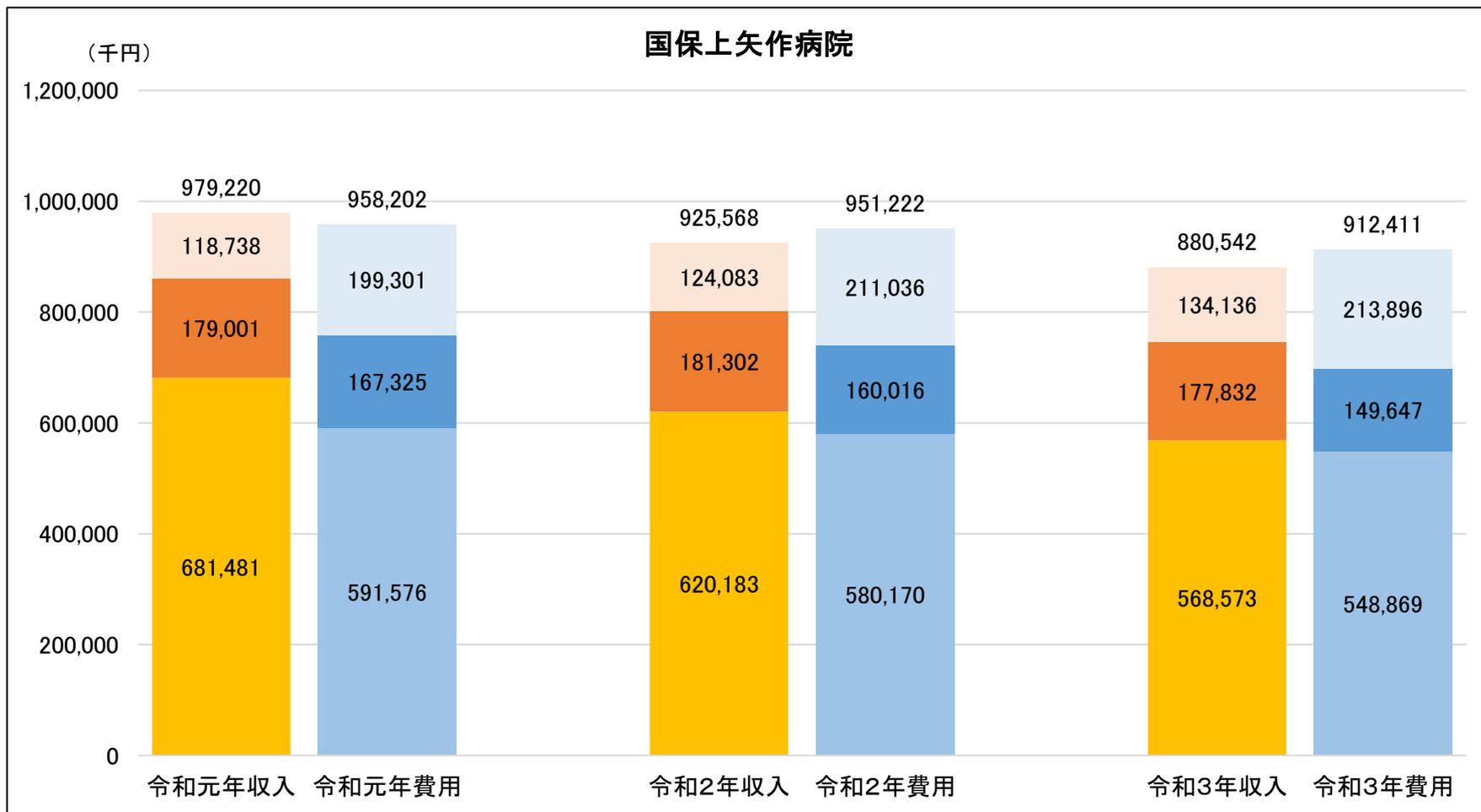




3. 各公立医療機関の現状と課題

(8) ③ 収支について

収入 ■ 診療収入 ■ 負担金等収入 ■ その他収入
費用 ■ 給与費 ■ 材料費 ■ 経費



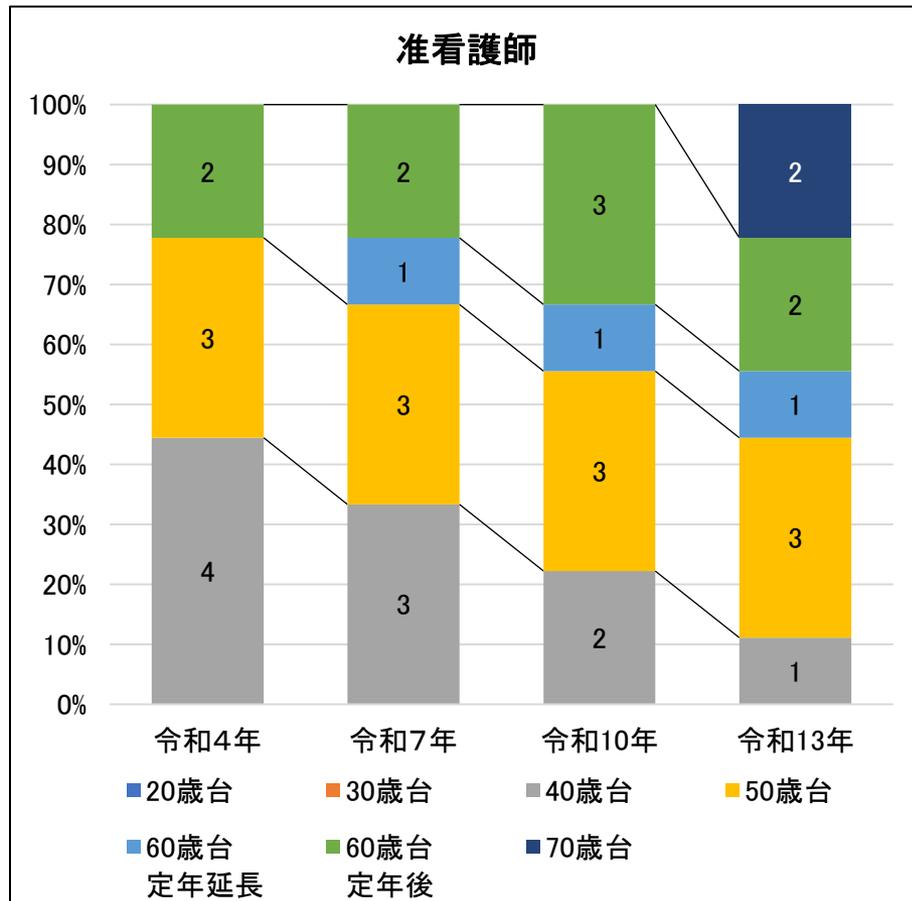
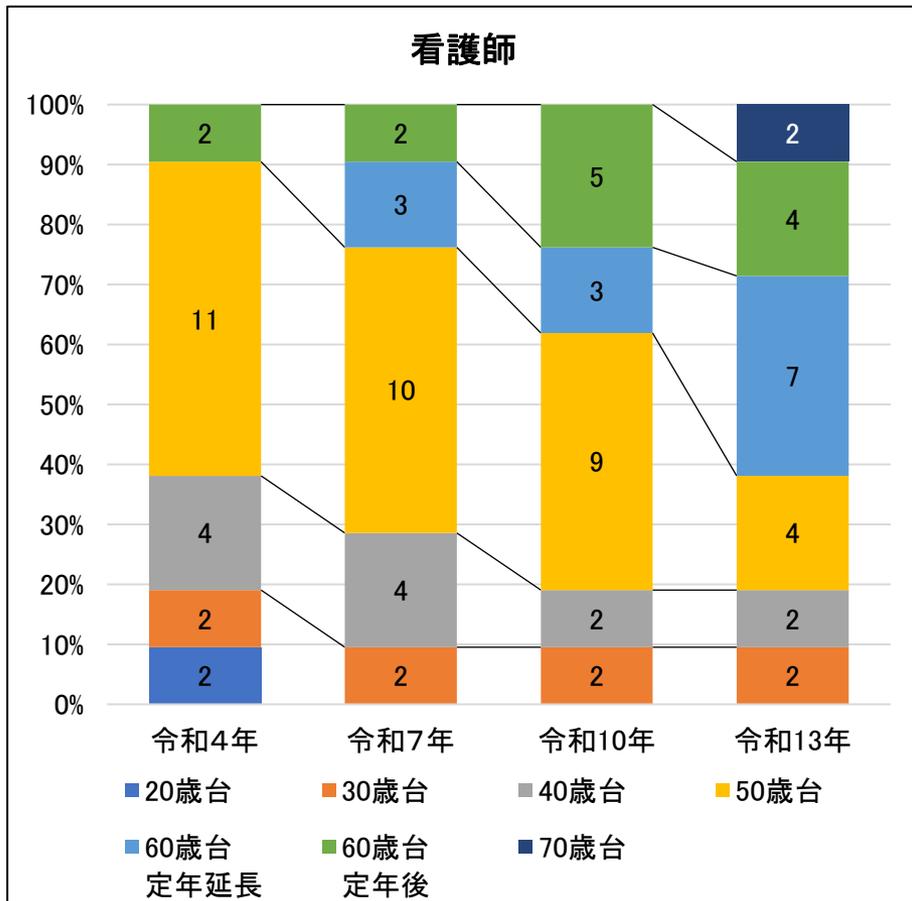
出所：恵那市病院事業決算報告書、市立恵那病院決算報告書





3. 各公立医療機関の現状と課題

(8) ④看護職員の年齢別将来推移 公立病院__国保上矢作病院



出所: 恵那市役所作成データ



